長崎県埋蔵文化財センター調査報告書 第10集

長崎県埋蔵文化財調査年報21

［平成24年度調査分］

２０１４

長崎県教育委員会

は　じ　め　に

私たちは、過去の歴史と文化にいろいろな形でかかわっております。埋蔵文化財もその一つです。先人が残した文化財を損なうことなく、貴重な国民的財産として適切に保存・活用していくことが重要です。そこで、県教育委会では、これまでも各種開発事業について協議、調整を重ねて文化財保護に努めてまいりました。

本書は、平成24年度に長崎県教育委員会が県下各地で実施した埋蔵文化財の発掘調査及び文化財の保護・保存・活用に係る事業概要を紹介しております。

文化財保護や地域の歴史を知るうえで、県民の皆様に本書がご活用頂ければ幸いに存じます。

平成26年２月14日

長崎県教育委員会教育長

渡　辺　敏　則

例　　言

1　本書は長崎県における埋蔵文化財保護行政の現状と長崎県教育委員会が平成24年度に実施した発掘調査の概要を収録したものである。

2　調査概要の遺跡位置図は国土地理院発行の地図（1/25,000）を使用している。

3　各遺跡の調査担当者と調査概要の文責は文末に記している。

4　本書の編集は長崎県埋蔵文化財センターが行った。

本 文 目 次

はじめに
1．長崎県の埋蔵文化財保護行政の現状 …… 1
（1）本県における公共工事に伴う発掘調査の現状 …… 1
（2）本県の埋蔵文化財保存活用事業（平成24年度） …… 2
（3）長崎県埋蔵文化財センターの事業 …… 3
2．平成24年度　県内市町発行の埋蔵文化財発掘調査報告書一覧 …… 9
3．平成24年度　県教委発行の埋蔵文化財発掘調査報告書一覧 …… 10
4．事業別発掘調査届出件数及び県市町別埋蔵文化財職員数の推移 …… 11
5．平成24年度における発掘調査の履歴 …… 12
6．平成24年度　県教委による埋蔵文化財発掘調査の概要
（1）小路口遺跡（範囲確認） …… 14
（2）鯨見山遺跡（範囲確認） …… 15
（3）伊ノ浦Ｂ遺跡（範囲確認） …… 16
（4）出島和蘭商館跡（本調査・立会調査） …… 17
（5）原の辻遺跡（範囲確認） …… 18
（6）知見寺Ｂ遺跡（範囲確認） …… 20
（7）尾和谷城跡隣接地（試掘） …… 21
（8）平松城跡（範囲確認） …… 22
（9）中田遺跡（本調査） …… 23
（10）専岩遺跡（本調査） …… 24
（11）上三反田遺跡（試掘） …… 25
（12）平野遺跡（試掘・範囲確認） …… 27
（13）小路口遺跡隣接地（試掘） …… 28
（14）竹松遺跡（本調査） …… 29
（15）竹松遺跡（試掘・範囲確認） …… 30
（16）竹松遺跡（本調査） …… 31
（17）竹松遺跡（試掘・範囲確認） …… 32
（18）竹松遺跡（範囲確認） …… 33

１．長崎県の埋蔵文化財保護行政の現状

（１）本県における公共工事に伴う発掘調査の現状

本県では九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設工事に伴った発掘調査が本格的に実施されており、平成21年10月末に実施した分布調査により13遺跡26ヶ所（試掘10ヶ所・範囲確認調査　13ヶ所・本調査３ヶ所）で事業着手前に調査が必要であることが確認されている。また、平成23年には、長崎までの同時着工が認可され、大村市竹松遺跡周辺に計画されていた新幹線の保守基地が車両基地に格上げされたため、予定面積が約11万㎡となり、さらに確認調査の規模が増大している。調査は用地買収の進捗に合わせて着手しており、平成26年度までに試掘・範囲確認調査、平成27年度までに本調査を完了する予定である。

平成24年度の調査としては、大村市竹松遺跡において車両基地部分で約9,000㎡、路線部分で約6,000㎡の本調査が実施されている。車両基地部分の主な遺構としては、弥生時代後期の箱式石棺墓や甕棺墓・土坑墓等の墓域と、古代から中世にかけての住居跡や掘立柱建物跡、鍛冶炉跡、井戸跡、溝などが確認され、それに伴う多数の遺物が出土している。特に、越州窯系青磁や緑釉陶器、墨書土器、刻書のある紡錘車、湖州六花鏡など、近隣に郡衙などの主要施設が予想される大変貴重な遺物が多数出土している。また、本明川流域の河岸段丘上で新規に確認された諫早市中田遺跡・専岩遺跡では、約300㎡の本調査が実施され、弥生時代中期から古墳時代前期を中心とした遺物が出土している。

竹松遺跡発掘調査風景

また、新幹線路線と平行した位置に建設予定である都市計画道路の建設に伴い大村市小路口遺跡の確認調査が実施された。その結果、縄文時代晩期を中心とする遺物包含層が確認され、約2,000㎡の本調査が必要となった。

その他、平成24年度に県教委が実施した発掘調査としては、一般国道499号線での共同溝整備工事に伴い長崎市出島跡の本調査が夜間調査として実施され、幕末に築造された石垣や石組遺構、近世陶磁器や西洋陶器、ガラス製品など多数の遺物が出土している。

（２）本県の埋蔵文化財保存活用事業（平成24年度）

～明日につなぐ埋蔵文化財人づくり事業～

○開発部局・文化財保護部局担当者文化財基礎研修

目　的　(1) 開発部局担当者に文化財に対する理解を深めてもらい、その取り扱いについて具体的な情報を提供することにより、円滑な文化財行政を推進する。

(2) 文化財主管課担当者に基礎的な知識を習得する場を提供し、文化財の保護に関する基本的な考え方や事務手続きなどの理解を深めさせ資質の向上を図る。

期　日　平成24年５月11日（金）

場　所　長崎歴史文化博物館 ホール

参加者　・県及び市町開発部局担当者

・県及び市町文化財担当者（実務経験３年未満を主体）　計　78名

内　容　・埋蔵文化財諸届に関する確認事項

・埋蔵文化財関係補助金制度の説明

・専門（技術）研修について

○長崎県市町文化財保護行政担当者会議（専門研修）

目　的　市町文化財保護行政主管課の課長及び担当者に、文化財保護に関する新たな情報や専門的な知識を習得する場を提供し、統一的なテーマを中心に講義・事例発表・討議などを行うことにより専門的な資質を向上させ、本県文化財保護行政の適切かつ円滑な推進を図る。

日　時　平成24年11月21日（水）

会　場　長崎県出島交流会館

参加者　県及び市町文化財行政担当者　　計　25名

内　容　・指定文化財の防犯対策について

・『長崎の教会群とキリスト教関連遺産』の世界遺産登録に向けた取組について

・その他、市町からの協議・照会事項に対するグループ協議

○埋蔵文化財担当者専門技術研修

目　的　長崎県下の遺跡から出土した資料の恒久的な保存と活用を行うための基礎的な考え方および技術を習得する。

日　時　平成24年11月26日（月）・27日（火）

会　場　長崎県埋蔵文化財センターおよび原の辻遺跡発掘現場

参加者　県内市町埋蔵文化財担当者　１名

内　容　・保存処理施設説明

・資料撮影実習

・金属製品保存処理実習

・精密分析機器による調査実習

・原の辻遺跡発掘現場見学

（３）長崎県埋蔵文化財センターの事業

①発掘調査事業

平成24年度の埋蔵文化財センターにおける発掘調査事業は、原の辻遺跡調査研究事業として重要遺構確認を目的に実施した原の辻遺跡範囲確認調査、県開発事業に伴う発掘調査、市町支援として範囲確認調査を新上五島町と西海市で実施した。

原の辻遺跡調査研究事業の調査では、古代の道路状遺構と弥生時代の旧河道の解明を目的として、11月１日から平成25年１月18日にかけて実施し、弥生時代の河川跡、土坑・ピット群などを検出し、今後の史跡整備にあたっての基礎資料を得た。

県開発事業に伴う発掘調査では、大村市に所在する小路口遺跡の範囲確認調査、長崎市に所在する出島和蘭商館跡の本調査を行った。小路口遺跡は縄文時代から弥生時代の遺物包蔵地とされる遺跡である。都市計画道路建設に伴い、７月23日から８月３日にかけて範囲確認調査を行った。出島和蘭商館跡の本調査は、一般国道499号線電線共同溝整備工事に伴い、11月19日から12月７日の間に本調査を実施し、平成25年２月４日から２月７日に立会調査を実施した。元治元年の石垣、および近世陶磁器、西洋陶器等の遺物を検出した。

市町支援発掘調査事業は、新上五島町の鯨見山遺跡において10月１日から10月３日にかけて範囲確認調査を実施し、工事対象区域に良好な遺構・遺物が残存していないことを確認した。また西海市の伊ノ浦Ｂ遺跡においては、個人住宅の土地造成に伴い、10月15日に範囲確認調査を実施し、土地造成箇所について遺構・遺物が残存していないことを確認した。

②保存処理事業

長崎県埋蔵文化財センターは平成22年１月に新設された際に、保存処理機器も導入され、平成22年度より国庫補助事業により年間400点を目標に保存処理を行っている。平成24年度は木製品357点、金属製品114点の保存処理を行った（内訳は一覧表参照）。また出土遺物の保存処理に伴う事前調査機器（精密分析機器）も導入され、金属製品の材質分析や構造調査も行っており、所定の申請を行ったものには外部利用も対応している。平成24年度は壱岐市教育委員会、対馬市教育委員会、出島復元整備室、福井県立博物館、佐賀県教育委員会、平戸市教育委員会、アジア水中考古学研究所から利用申請があり、出土木製品および金属製品の保存処理と透過Ｘ線撮影、蛍光Ｘ線分析装置、三次元計測器などの利用があった。

精密グラインダーによる錆取作業

PEG 含浸処理作業

三次元計測器

◆木製品：357点

遺 跡 名	所在地	処理点数	処理方法	時　代	備　　考
大浜遺跡	五島市	2点	PEG含浸処理	古墳時代	長崎県文化財調査報告書第141集
沖城跡	諫早市	32点	PEG含浸処理	江戸時代	長崎県文化財調査報告書第143集
栄町遺跡	長崎市	12点	PEG含浸処理	江戸時代	長崎県文化財調査報告書第162集
玖島城跡	大村市	11点	PEG含浸処理	江戸時代	長崎県文化財調査報告書第167集
長崎奉行所跡	長崎市	147点	PEG含浸処理	江戸時代	長崎県文化財調査報告書第177集
		125点	PEG含浸処理	江戸時代	長崎県文化財調査報告書第183集
		6点	糖アルコール含浸処理		
		1点	PEG→真空凍結乾燥		
開遺跡	諫早市	1点	PEG含浸処理	室町時代	長崎県文化財調査報告書第193集
黒丸遺跡	大村市	20点	PEG含浸処理	弥生時代	長崎県文化財調査報告書第204集

◆金属製品：114点

遺 跡 名	材質	処理点数	処理内容	時　代	備　　考
一野遺跡（島原市）	鉄	2点	透過エックス線撮影 錆取り作業 樹脂含浸強化	古墳時代	長崎県島原土木事務所報告(1960年６月)
長崎奉行所跡（長崎市）	鉄	24点	透過エックス線撮影 錆取り作業 樹脂含浸強化	江戸時代	長崎県文化財調査報告書第183集
	銅・青銅	87点			
	その他	1点			

③教育普及事業

＜キッズこうこがく研究所＞

長崎県埋蔵文化財センターでは、壱岐市立一支国博物館１階（約100㎡）において、「キッズこうこがく研究所」を運営している。現在、発掘作業体験、土器パズル、ペーパーパズル、ぬり絵などがあり、随時更新している。平成24年度には、発掘作業体験の発掘タイムを競う､タイムに応じて認定書を渡す､２人一組で行うなどのルールを定め、それによってゲーム性を高める試みをした。その結果、以前より利用者数を増やすことができた。

【平成24年４月１日から　平成25年３月31日までの入場者数】

子供	大人	計
10,658人	23,112人	33,770人

＜オープン収蔵展示＞

長崎県埋蔵文化財センターでは、職員の資料活用技術向上と博物館支援を目的に、オープン収蔵庫（ガラス張りでキッズこうこがく研究所および博物館2階より収蔵庫の内部を見ることができる収蔵庫）にて遺物展示を行っている。平成24年度は以下の遺物展示を行った。

テ ー マ	主 な 展 示 品	期　　間
『Year of the Dragon ～ながさき龍展～』	竜線刻土器（原の辻遺跡)、獣帯文鏡（原の辻遺跡)、金銅製単鳳環頭太刀（双六古墳レプリカ）等	平成24年６月５日～平成24年12月２日
『ながさきの城と館』	今屋敷家老屋敷跡（対馬市）出土品、石田城跡（五島市）出土品、玖島城跡（大村市）出土品、沖城跡諫早家御屋敷跡（諫早市）出土品、長崎奉行所跡（長崎市）出土品	平成24年12月４日～平成25年６月２日

<情報誌>

大人用情報誌として「南北市羅 第３号」を３月に発行した。「南北市羅」は見開き４ページの構成で、センター発掘情報などを掲載した。「南北市羅」はセンターホームページに掲載している。

また、子ども用情報誌として「キッズこうこがく」を見開き４ページの構成で６月および12月に発刊した。埋蔵文化財センターが運営する一支国博物館内にある「キッズこうこがく研究所」の紹介や、考古学や埋蔵文化財に対して楽しみながら子どもたちの興味・関心を高めることを意図した「マイブンクエスト」などの記事を掲載した。「キッズこうこがく」は県内学校や教育機関、各都道府県埋蔵文化財センターなどの考古学関連機関に配布し、センターホームページにも掲載している。

<ホームページ公開更新>

ホームページ（http://www.nagasaki-maibun.jp/）には『施設案内』のほか、近年の発掘成果を紹介している『発掘情報』、刊行物やキッズこうこがく研究所のイベントなどを紹介する『イベント情報』、壱岐高等学校での授業や体験学習の様子を紹介する『履歴情報』、収蔵している出土品や精密分析機器の施設利用に関する申請書などを掲載している。

<精密機器で調べてみよう>

長崎県埋蔵文化財センターでは『精密分析機器で調べてみよう』と題し、年間10回主に小学生を対象とした体験学習を行っている。専門職員や大人に対する説明ではなく、子どもたちでも分かりやすく、また興味を示すようなアイデアを盛り込み、各機器の特性を活かした工夫をこらしている。身近なものを精密機器を用いて観察、分析することで得られる情報から、埋蔵文化財センターの仕事内容や成果の普及活動に努めている。

<資料貸出・閲覧・掲載許可>

センターでは収蔵する出土品の貸出や資料閲覧、写真等掲載に関して､所定の申請を行ったものに許可し対応している。平成24年度は30件の申請があり約1700点に関して対応した。表のその他とは実測図等記録類の貸出などを含む。

平成24年度実績	件数	点数
考古資料等貸出	6	32
考古資料閲覧	9	1558
写真等掲載許可	12	57
その他	3	72
	30	1,719

＜長崎県立壱岐高等学校「東アジア歴史・中国語コース支援事業＞

平成24年度の長崎県立壱岐高等学校「東アジア歴史・中国語コース」支援事業では、センター職員による講義や実習等の授業を20回実施した。原の辻遺跡の発掘時期には、１・２年生合同で発掘実習を３回実施し、壱岐島内の古墳群と中近世城館跡の巡検研修も実施した。さらに、12月には、３年間の集大成ともいうべき「紀要」作成の中間報告として課題研究テーマ発表会を壱岐高等学校で開催し、センター職員がコース生徒に向けて指導・助言を行った。

木器･金属器概説（講義）

原の辻遺跡発掘実習

			歴史学入門（１学年）			考古学入門・生活文化史（２学年）		
月	日	曜	授業名	担当者	実施場所	授業名	担当者	実施場所
4	18	水				考古学研究法（講義）	古澤	壱岐高
	25	水				石器概説（石器づくり実習・講義）	川道	ガイダンス
5	9	水	一支国博物館・県埋蔵文化財センター見学	田口・片多	博物館・埋文センター			
	23	水				土器概説①（土器作り実習）	安楽	ガイダンス
	30	水				土器概説②（土器焼成）	安楽	ガイダンス
6	13	水	東アジアの地誌（講義）	古澤	壱岐高	東アジアの地誌（講義）	古澤	壱岐高
	20	水				木器・金属器概説（講義）	片多	埋文センター
7	4	水	東アジアの歴史（講義）	古澤	壱岐高	東アジアの歴史（講義）	古澤	壱岐高
9	12	水				博物館学・展示方法の研究	片多	埋文センター
	19	水				考古学調査法（講義）	川道	壱岐高
	26	水	原の辻遺跡特論（講義）	安楽	壱岐高	原の辻遺跡特論（講義）	安楽	壱岐高
10	31	水	壱岐の古墳（講義）	安楽	壱岐高	壱岐の古墳（講義）	安楽	壱岐高
11	14	水	原の辻遺跡発掘体験①	古澤	原の辻遺跡	レベル実測①（実習）	田口	原の辻遺跡
	21	水	原の辻遺跡発掘体験②	古澤	原の辻遺跡	レベル実測②（実習）	田口	原の辻遺跡
	28	水	原の辻遺跡発掘体験③	安楽・田口	原の辻遺跡	発掘実習	古澤	原の辻遺跡
12	12	水	3学年課題研究テーマ発表会	壱岐高	壱岐高	3学年課題研究テーマ発表会	壱岐高	壱岐高
1	23	水				整理作業実習（ナンバリング・トレース）	古澤	埋文センター
2	6	水				壱岐の古墳（巡検）	安楽	島内古墳群
	13	水				壱岐の城郭（巡検）	林	島内城館跡
	27	水				課題研究テーマ検討（ディスカッション）	古澤・田口	埋文センター

平成24年度　開講授業一覧

＜全国高等学校総合文化祭　「2013長崎しおかぜ総文祭　郷土研究部門」＞

８月17日・18日の２日間、全国高等学校総合文化祭「2013　長崎しおかぜ総文祭　郷土研究部門」に向けてのプレ大会が壱岐市内で開催された。18日は壱岐島内の巡検研修が実施され、県埋蔵文化財センター職員が長崎県立壱岐高等学校と壱岐商業高等学校の巡検ガイド生徒に対して、原の辻遺跡、一支国博物館・長崎県埋蔵文化財センター施設内の説明を行い、来年の本番に向けて指導を行った。

原の辻遺跡内の説明

保存処理施設案内

④東アジア考古学研究事業

【東アジア国際ミニシンポジウム「倭と韓　弥生時代のこころの交流－原の辻遺跡と新昌洞遺跡－」の開催】

共同研究の成果を公開するという目的のもと今年度は東アジア国際ミニシンポジウムを開催した。

○主　催　長崎県埋蔵文化財センター

○共　催　壱岐市教育委員会・壱岐市立一支国博物館

○後　援　魏志倭人伝のクニグニネットワーク参加教育委員会（福岡県、佐賀県、糸島市、福岡市、朝倉市、飯塚市、宇美町、唐津市、神埼市、吉野ヶ里町、対馬市各教育委員会）、朝日新聞社、読売新聞社西部本社、毎日新聞社、西日本新聞社、佐賀新聞社、長崎新聞社、壱岐新聞社、壱岐新報社、壱岐日々新聞社、壱岐ビジョン

○日　時　平成24年10月27日（土）

○場　所　壱岐市立一支国博物館多目的ホール

○当日参加者　162名

○内　容

総合司会　……高恩美（長崎県埋蔵文化財センター東アジア考古学研究室）

第Ⅰ部　弥生の人々の祈りとその源流　……大坪志子（熊本大学埋蔵文化財調査センター助教）

第Ⅱ部　壱岐・原の辻遺跡と韓国・新昌洞遺跡の精神文化

倭と韓　弥生時代のこころの交流～原の辻遺跡における精神文化～

……安楽勉（長崎県埋蔵文化財センター東アジア考古学研究室長）

遺物からみた古代の精神文化-光州新昌洞遺跡出土品を中心に-

……金東完（韓国・国立光州博物館学芸研究士）

当日は古澤義久（長崎県埋蔵文化財センター東アジア考古学研究室）が発表

第Ⅲ部　パネルディスカッション

登壇者：大坪志子、李東冠（福岡大学研究員）、安楽勉、古澤義久

150名の参加を目標に島内・島外へ広報・集客を行い、結果として目標を超過する参加者が参集した。当日、諸事情により韓国・国立光州博物館学芸研究士　金東完氏が来られなくなったため、古澤義久文化財保護主事が新昌洞遺跡の発表を担当し、パネルディスカッションには、韓国の初期鉄器時代・原三国時代の文化に造詣が深い福岡大学で研究員をされている李東冠氏にご登壇いただいた。精神文化遺物や装身具といったテーマが珍しく、参加者からは日韓に類似した精神文化に関係する遺物が出土することに対する驚きや感動の声などが寄せられた。

大坪志子氏講演

パネルディスカッション

【長崎県埋蔵文化財センター研究紀要の刊行】

平成25年３月に長崎県埋蔵文化財センター研究紀要第３号を刊行した。本年度も県内の市町教育委員会文化財所管課にも広く呼びかけ原稿を募集した。

川道　寛…石銛と鋸歯尖頭器の二者～縄文時代石製漁撈具の諸相～

古澤義久…対馬市佐賀貝塚出土丸底土器について－縄文時代後期日韓土器文化交流に関する予察－

林　隆広…弥生時代における磨製石器の撮影について

～特に刃部の明瞭な石包丁・扁平片刃石斧の場合～

安楽　勉…壱岐出土の子持勾玉

林　隆広…松浦党城郭雑感～志佐氏の城跡～

林　隆広…長崎県内城郭における横矢（横矢掛り）について～生池城、古田城の検討を中心に～

片多雅樹…長崎県埋蔵文化財センターにおける保存処理済み木製品の保管環境について

２．平成24年度　県内市町発行の埋蔵文化財発掘調査報告書一覧

○長崎市教育委員会発行

発行年	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集番号
2013	『唐人屋敷遺跡』	唐人屋敷遺跡		
2013	『八百屋町遺跡』	八百屋町遺跡		

○南島原教育委員会発行

発行年	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集番号
2013	『市内遺跡Ⅰ』	日野江町遺跡・日野江城跡・日野江城城下地区遺跡・日野江城二ノ丸北側地点・幕府軍陣跡推定地	南島原市文化財調査報告書	第７集

○平戸市教育委員会発行

発行年	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集番号
2013	『市内遺跡発掘調査報告書ⅩⅡ』	下中野第１遺跡隣接地・辻第２遺跡隣接地・入口・番岳・久吹・大崎みやま・生向・里田原・籠手田城・横島	平戸市の文化財	第68集

壱岐市教育委員会発行

発行年	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集番号
2013	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	壱岐市文化財調査報告書	第21集

３．平成24年度　県教委発行の埋蔵文化財発掘調査報告書一覧

長崎県埋蔵文化財センター調査報告書

発行年	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集番号
2013	『長崎県埋蔵文化財調査年報20』	原の辻遺跡・尾和谷城跡・岸高遺跡・竹松遺跡・久留里遺跡・葛瀬遺跡・今福遺跡・中之館跡	長崎県埋蔵文化財センター調査報告書	第８集
2013	『原の辻遺跡』	原の辻遺跡	長崎県埋蔵文化財センター調査報告書	第９集

長崎県佐世保文化財調査事務所調査報告書

発行年	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集番号
2013	『今福遺跡』	今福遺跡	長崎県佐世保文化財調査事務所調査報告書	第８集

※こちらの一覧を含む長崎県内発行の報告書につきましては、
長崎県埋蔵文化財センターホームページ（http://www/nagasaki-maibun/jp/）のトップページ左側

「図書情報検索」から、「書名」・「著者名」・「出版社名」・「キーワード」・「出版年」などの項目で検索していただけます。

４．事業別発掘調査届出件数及び県市町別埋蔵文化財職員数の推移

（１）事業別発掘調査届出件数の推移

調査の目的･契機	平成23年度		平成24年度	
a 道路	5	(4)	4	(3)
b 鉄道	5	(1)	12	(6)
c 空港	0		0	
d 河川	0		4	(1)
e 港湾	0		0	
f ダム	0		0	
g 学校建設	0		1	(1)
h 住宅	9	(7)	11	(9)
i 個人住宅	15	(13)	11	(11)
j 工場	0		1	(1)
k 店舗	1	(1)	6	(6)
l 個人住宅兼工場または店舗	0		1	(1)
m その他の建物	11	(9)	20	(15)
n 宅地造成	10	(8)	11	(11)
o 土地区画整理	0		0	
p 公園造成	0		0	
q ゴルフ場	0		0	
r 観光開発	0		0	
s ガス･電気･水道等	3	(3)	5	(3)
t 農業基盤整備事業	0		5	(3)
u その他の農業関係事業	0		0	
v 土砂採取	1	(1)	0	
w その他の開発	10	(8)	12	(11)
x 自然崩壊	1		0	
y 保存目的の範囲内容確認調査	16	(4)	13	(2)
z 学術調査	1		1	
	88		118	

※（　）数字は件数のうち「開発に伴う試掘・範囲確認調査の報告（長崎県埋文様式５号)」での報告数

※　ただし「保存目的の範囲確認調査」の（　）数字は史跡現状変更申請による発掘調査を示す

（２）県及び市町埋蔵文化財担当者職員数の推移　※（　　）は嘱託職員数

区 分	平成19年	平成20年 註)	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
県	18(12)	17(16)	15(19)	13(19)	15(23)	18(32)
市 町	35(8)	71(9)	48(15)	39(15)	39(14)	38(14)

註）平成20年度の市町は文化財担当者を含む

５．平成24年度における発掘調査の履歴

遺跡調査番号	遺跡略号	遺跡名	調査開始日	調査終了日	調査原因	記号	調査種別	調査面積(㎡)	調査主体(旧市町含)	遺跡所在地	届出通知
		福井洞窟	2012/4/1	2013/3/29	保存目的	y	本調査	16.0	佐世保市	佐世保市	99条
		竹松遺跡	2012/4/12	2012/4/13	工場	j	範確	12.0	大村市	大村市	様式5号
		竹松遺跡	2012/4/12	2012/4/13	その他建物(自動車整備工場)	m	試掘	12.0	大村市	大村市	様式5号
		車出遺跡	2012/4/16	2012/4/18	店舗	k	試掘	69.3	壱岐市	壱岐市	様式5号
		竹辺D遺跡	2012/4/17	2012/4/17	個人住宅	i	範確	2.3	佐世保市	佐世保市	様式5号
		籠手田城跡	2012/4/18	2012/6/1	その他の建物	m	範確	69.0	平戸市	平戸市	様式5号
		竹松遺跡	2012/4/23	2012/4/24	宅地造成	n	範確	18.0	大村市	大村市	様式5号
		山田原遺跡隣接地	2012/4/25	2012/5/10	農業基盤整備事	t	範確	22.0	雲仙市	雲仙市	様式5号
		古賀島3遺跡	2012/5/7	2012/5/9	店舗	k	範確	90.0	大村市	大村市	様式5号
201201	OWA	尾和谷城跡(隣接地)	2012/5/15	2012/5/22	鉄道	b	試掘	54.0	県(新幹線)	諫早市	様式5号
		式見C遺跡	2012/5/16	2012/5/16	ガス・電気・水道	s	範確	3.6	長崎市	長崎市	様式5号
201202	TAK	竹松遺跡	2012/5/18	2013/3/15	鉄道	b	本調査	10000.0	県(新幹線)	大村市	99条
		三川内東窯跡	2012/5/18	2012/5/18	道路	a	範確	1.6	佐世保市	佐世保市	様式5号
		長牟田遺跡	2012/5/18	2012/5/28	宅地造成	n	範確	16.0	諫早市	諫早市	様式5号
		竹松遺跡	2012/5/21	2012/6/1	店舗	k	範確	110.0	大村市	大村市	様式5号
		桟原城跡	2012/5/21	2012/6/5	その他開発(浄化槽建設)	w	範確	12.0	対馬市	対馬市	様式5号
		権現脇遺跡	2012/5/23	2013/3/27	河川	d	本調査	3440.0	南島原市	南島原市	99条
		真正寺条里跡	2012/5/29	2012/7/21	その他の建物	m	範確	52.75	雲仙市	雲仙市	様式5号
		黒丸遺跡	2012/6/5	2012/6/20	宅地造成	n	範確	255.0	大村市	大村市	様式5号
		直谷稲荷神社岩陰遺跡	2012/6/5	2012/6/5	その他の建物	m	範確	4.0	佐世保市	佐世保市	様式5号
		辻第二遺跡隣接	2012/6/7	2012/6/7	その他開発(防火水槽)	w	試掘	8.0	平戸市	平戸市	様式5号
		岳ノ田遺跡	2012/6/11	2012/6/13	道路	a	範確	13.5	佐世保市	佐世保市	様式5号
201203	HIR	平松城跡	2012/6/13	2012/6/20	鉄道	b	範確	12.0	県(新幹線)	諫早市	報告書
		小栗C地点遺跡	2012/6/19	2012/6/30	その他建物(集合アパート)	m	範確	12.0	諫早市	諫早市	様式5号
		竹松遺跡	2012/6/19	2012/7/5	宅地造成	n	範確	61.5	大村市	大村市	様式5号
		竹松遺跡	2012/6/19	2012/7/5	宅地造成	n	範確	97.5	大村市	大村市	様式5号
		里田原遺跡	2012/6/20	2012/6/22	その他の建物	m	範確	3.0	平戸市	平戸市	様式5号
		久吹遺跡	2012/6/20	2012/6/22	その他の建物	m	範確	1.5	平戸市	平戸市	様式5号
		大崎みやま遺跡	2012/6/20	2012/6/22	その他の建物	m	範確	2.3	平戸市	平戸市	様式5号
		生向遺跡	2012/6/20	2012/6/22	その他の建物	m	試掘	1.8	平戸市	平戸市	様式5号
		唐人屋敷跡	2012/6/20	2012/7/6	住宅	h	範確	18.0	長崎市	長崎市	様式5号
		宮津遺跡隣接地	2012/6/21	2012/6/21	個人住宅	i	試掘	3.0	佐世保市	佐世保市	様式5号
201204	TAK	竹松遺跡	2012/7/2	2012/7/23	鉄道	b	本・試・範	104.0	県(新幹線)	大村市	99条
		富の原遺跡	2012/7/5	2012/8/1	店舗	k	範確	566.0	大村市	大村市	様式5号
		姫神社遺跡	2012/7/9	2012/7/26	その他建物(養護老人ホーム)	m	試・範	42.0	松浦市	松浦市	99条
		番岳遺跡	2012/7/9	2012/7/18	その他開発(ため池)	w	範確	21.0	平戸市	平戸市	様式5号
		桜町遺跡	2012/7/9	2012/7/26	その他建物(集合住宅)	m	範確	14.0	長崎市	長崎市	様式5号
		対馬藩主宗家墓所(万松院庭園)	2012/7/9	2012/8/10	保存目的	y	範確	6.1	対馬市	対馬市	結果報告書
		俵ヶ浦A遺跡	2012/7/19	2012/7/19	その他の建物	m	範確	2.3	佐世保市	佐世保市	様式5号
201205	NAK	中田遺跡	2012/7/23	2012/8/31	鉄道	b	本調査	88.0	県(新幹線)	諫早市	99条
201206	SEN	専岩遺跡	2012/7/23	2012/8/31	鉄道	b	本調査	212.0	県(新幹線)	諫早市	99条
201207	ORO	小路口遺跡	2012/7/23	2012/8/3	保存目的の範囲内容確認調査	y	範確	40.0	県(埋センター)	大村市	99条
		古作遺跡	2012/7/23	2012/8/2	農業基盤整備事業	t	試掘	44.0	南島原市	南島原市	様式5号
		唐人屋敷跡	2012/7/24	2012/7/31	住宅	h	本調査	48.0	長崎市	長崎市	99条
		白石谷遺跡	2012/7/24	2012/7/27	その他開発(駐車場)	w	範確	12.0	諫早市	諫早市	様式5号
		上ケ池遺跡	2012/7/24	2012/7/26	道路	a	試掘	2.0	雲仙市	雲仙市	様式5号
		空池周辺遺跡	2012/7/30	2012/8/21	農業基盤整備事業	t	範確	40.0	南島原市	南島原市	99条
		栄原遺跡	2012/7/30	2012/8/21	農業基盤整備事業	t	範確	16.0	南島原市	南島原市	99条
		空地原地区(遺跡名なし)	2012/7/30	2012/8/21	農業基盤整備事業	t	試掘	24.0	南島原市	南島原市	様式5号
		黒丸遺跡	2012/8/17	2012/8/21	学校建設	g	範確	20.0	大村市	大村市	様式5号
		桜町遺跡	2012/8/20	2012/9/28	その他建物	m	本調査	34.5	長崎市	長崎市	99条
		桜町遺跡	2012/8/22	2012/8/30	住宅	h	範確	13.0	長崎市	長崎市	様式5号
		北渓井坑跡	2012/8/23	2012/9/18	保存目的	y	範確	42.4	長崎市	長崎市	99条
201208	TAK	竹松遺跡	2012/8/31	2013/3/14	鉄道	b	本調査	6300.0	県(新幹線)	大村市	99条
		竹松遺跡	2012/9/3	2012/9/4	個人住宅	i	範確	10.0	大村市	大村市	様式5号
		青島遺跡	2012/9/4	2012/9/11	その他建物	m	範確	12.0	松浦市	松浦市	99条
		青島遺跡	2012/9/4	2012/9/11	その他建物	m	範確	12.0	松浦市	松浦市	様式5号
201209	SIS	新諫早SS建設予定(上三反田遺跡)	2012/9/5	2012/9/14	鉄道	b	試掘	65.0	県(新幹線)	諫早市	様式5号
		中尾上登窯跡	2012/9/11	2013/3/29	保存目的	y	範確	149.5	波佐見町	波佐見町	99条
		永田古墳群	2012/9/11	2012/9/21	その他開発(国有地売却)	w	試掘	52.0	壱岐市	壱岐市	様式5号
		森岳城跡	2012/9/12	2012/9/14	住宅	h	範確	16.0	島原市	島原市	様式5号
		式見C遺跡	2012/9/13	2012/9/13	ガス・電気・水道	s	範確	1.3	長崎市	長崎市	様式5号
		横島和蘭商館付属施設跡	2012/9/19	2013/3/15	保存目的	y	範確	190.0	平戸市	平戸市	99条
		桜町遺跡	2012/9/20	2012/9/28	住宅	h	本調査	42.0	長崎市	長崎市	99条
		三城城下跡	2012/9/24	2012/9/25	宅地造成	n	範確	20.0	大村市	大村市	様式5号
201210	KMY	鯨見山遺跡	2012/10/1	2012/10/3	保存目的の範囲内容確認調査	y	範確	24.0	県(埋文センター)	新上五島町	99条
		小野条里遺跡	2012/10/1	2013/3/15	店舗	k	範確	8.0	諫早市	諫早市	様式5号
201212	HRN	平野遺跡	2012/10/2	2012/10/16	鉄道	b	試・範	84.0	県(新幹線)	大村市	様式5号
		富の原遺跡	2012/10/2	2012/10/9	住宅	h	範確	36.0	大村市	大村市	様式5号
		島田遺跡	2012/10/3	2012/10/16	保存目的	y	範確	36.0	東彼杵町	東彼杵町	99条
		田井原条里遺跡	2012/10/9	2012/10/12	その他建物(集合住宅)	m	範確	20.0	諫早市	諫早市	様式5号
		玖島城跡	2012/10/9	2012/10/11	その他建物(施設建替)	m	試・範	64.0	大村市	大村市	様式5号

遺跡調査番号	遺跡略号	遺跡名	調査開始日	調査終了日	調査原因	記号	調査種別	調査面積(㎡)	調査主体(旧市町含)	遺跡所在地	届出通知
201211	IUB	伊ノ浦B遺跡	2012/10/15	2012/10/15	個人住宅	n	範確	8.0	県(埋文センター)	西海市	様式5号
		金石城跡	2012/10/15	2012/12/7	その他建物(博物館)	m	範確	72.0	対馬市	対馬市	99条
		母ヶ浦B遺跡(隣接地)	2012/10/20	2013/2/25	住宅	h	試掘	18.0	佐世保市	佐世保市	様式5号
		黒丸遺跡	2012/10/22	2012/10/31	宅地造成	n	範確	130.5	大村市	大村市	様式5号
		坂口・内高野遺跡	2012/10/22	2012/11/1	住宅	h	範確	12.0	大村市	大村市	様式5号
		重籠遺跡	2012/10/29	2012/10/31	ガス・電気・水道	s	範確	12.2	長崎市	長崎市	様式5号
201213	TAK	竹松遺跡(金屋町)	2012/10/30	2012/11/9	鉄道	b	試・範	66.0	県(新幹線)	大村市	様式5号
201218	HAR	原の辻遺跡	2012/11/1	2013/1/15	保存目的	y	範確	500.0	県(埋文センター)	壱岐市	99条
201216	DJM	出島和蘭商館跡	2012/11/19	2012/12/7	ガス・電気・水道	s	本調査	54.0	県(埋文センター)	長崎市	99条
201214	ORO	小路口遺跡(隣接地)	2012/11/27	2012/12/5	鉄道	b	試掘	78.0	県(新幹線)	大村市	様式5号
201215	CHK	知見寺B遺跡	2012/11/27	2012/11/29	道路	a	範確	12.0	県(佐世保)	佐世保市	99条
		古野遺跡(ふるの・この)	2012/11/28	2012/12/28	ガス・電気・水道	s	本調査	50.0	佐世保市	佐世保市	99条
		黒丸遺跡	2012/11/28	2012/11/29	宅地造成	n	範確	62.0	大村市	大村市	様式5号
		里田原遺跡	2012/11/28	2012/12/4	個人住宅	i	範確	6.0	平戸市	平戸市	様式5号
		大上戸川条里跡	2012/11/30	2012/12/4	宅地造成	n	範確	240.0	大村市	大村市	様式5号
		栢ノ木遺跡	2012/12/3	2012/12/26	保存目的	y	範確	60.0	松浦市	松浦市	99条
		小野条里遺跡	2012/12/4	2012/12/7	個人住宅	i	範確	4.0	諫早市	諫早市	様式5号
		松原遺跡	2012/12/7	2012/12/7	その他開発(防災行政無線)	w	範確	2.3	佐世保市	佐世保市	様式5号
		黒島B遺跡	2012/12/7	2012/12/7	その他開発(防災行政無線)	w	範確	2.3	佐世保市	佐世保市	様式5号
		西下岳遺跡	2012/12/10	2012/12/10	その他開発(防災行政無線)	w	範確	2.3	佐世保市	佐世保市	様式5号
		江永西窯跡	2012/12/18	2012/12/18	その他開発(防災行政無線)	w	範確	2.0	佐世保市	佐世保市	様式5号
		井手平城跡	2012/12/19	2012/12/19	その他開発(防災行政無線)	w	範確	4.0	佐世保市	佐世保市	様式5号
		入口遺跡	2012/12/25	2013/2/4	保存目的	y	範確	60.0	平戸市	平戸市	様式5号
		権現脇遺跡	2013/1/7	2013/3/27	河川	d	本調査	1700.0	南島原市	南島原市	99条
		黒丸遺跡	2013/1/9	2013/1/16	宅地造成	n	範確	90.0	大村市	大村市	様式5号
201217	TAK	竹松遺跡	2013/1/10	2013/2/20	鉄道	b	範確	187.0	県(新幹線)	大村市	様式5号
		丸木館跡	2013/1/10	2013/1/10	個人住宅	i	範確	0.6	長崎市	長崎市	様式5号
		壱岐国分寺跡	2013/1/11	2013/3/29	保存目的	y	範確	292.0	壱岐市	壱岐市	99条
		金石城跡	2013/1/15	2013/2/7	その他の建物	m	範確	9.0	対馬市	対馬市	99条
		富の原遺跡	2013/1/16	2013/1/23	店舗	k	範確	30.0	大村市	大村市	様式5号
		竹松遺跡	2013/1/28	2013/1/29	個人住宅	i	範確	12.0	大村市	大村市	様式5号
		北渓井坑跡	2013/1/28	2013/3/26	学術調査	z	本調査	155.2	長崎市	長崎市	99条
		三城城下跡	2013/1/30	2013/1/31	住宅	h	範確	16.5	大村市	大村市	様式5号
		筏跡B	2013/2/7	2013/3/25	その他の建物	m	範確	30	雲仙市	雲仙市	様式5号
		竹松遺跡	2013/2/13	2013/2/20	個人住宅	i	範確	13.5	大村市	大村市	様式5号
		三城城下跡	2013/2/19	2013/3/8	宅地造成	n	範確	120.0	大村市	大村市	様式5号
		上須瀬遺跡	2013/2/21	2013/3/15	その他開発(ソーラーパネル発電施設)	w	範確	4.0	諫早市	諫早市	様式5号
		深江氏館跡遺跡	2013/2/21	2013/2/21	個人住宅兼工場または店舗	i	範確	6.0	佐世保市	佐世保市	様式5号
		籠手田城跡	2013/2/21	2013/3/21	その他の建物(	m	範確	38.0	平戸市	平戸市	様式5号
		日向平遺跡	2013/3/11	2013/3/12	住宅	h	範確	22.5	大村市	大村市	様式5号
		武辺城跡(隣接地)	2013/3/11	2013/3/18	住宅	h	試掘	47.0	佐世保市	佐世保市	様式5号
		三城城下跡(隣接)	2013/3/12	2013/3/12	その他開発(駐車場)	w	範確	20.0	大村市	大村市	様式6号
		権現脇遺跡	2013/3/25	2013/3/27	河川	d	範確	24.0	南島原市	南島原市	99条
								27301.2			

６．平成24年度長崎県教育委員会による埋蔵文化財発掘調査の概要

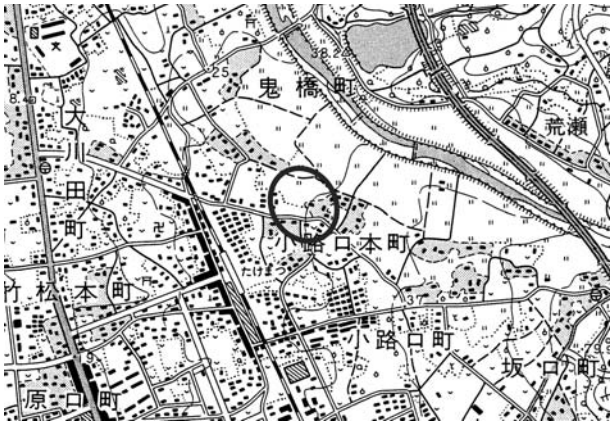
（１）小路口遺跡

所 在 地　大村市小路口本町下小路口1094-16　　**調査主体**　長崎県埋蔵文化財センター

調査原因　都市計画道路建設　　**調査面積**　40㎡

調査期間　平成24年７月23日～平成24年８月３日　　**調査区分**　範囲確認調査

報 告 書　刊行予定なし　　**処　　置**　本調査



小路口遺跡位置図〔武留路山〕（S＝1/25,000）

立　地

遺跡の所在する小路口本町の集落は大村市にあるJR竹松駅の北東側に展開する。小路口遺跡は縄文時代から弥生時代の遺物包含地とされていて、郡川の作り出した扇状地にある。遺跡の標高は、約29～32mにあたる。

調　査

調査箇所は、遺跡範囲の東端部を南北に横切って都市計画道路を新設する地区の一部で、長さ約200m、道路幅28mを遺跡対象箇所として範囲確認調査を実施した。調査区は２×２mの試掘坑を基本に10箇所設定し、内１箇所については１×４mの試掘坑を設定し、発掘調査を実施した。調査試掘坑の名称は、南側からTP１～TP10区の名称を付して精査を行なった。調査区の遺構や遺物包含層の状況は、TP１～TP６区で近代の建物跡やコンクリート畦、塩ビ管の埋設等によって撹乱や削平を受けていて、包含層が認められなかった。これより北側のTP７～TP10区からはそれぞれ、遺物の出土及び遺物包含層が確認された。TP７～TP10区の土層堆積状況は、Ⅰ層については地権者が耕作土をほぼ剥ぎ取りなくなっていた。Ⅱ層は古代・中世の遺物を含んだ明赤灰色土が堆積し、Ⅲ層は縄文時代晩期の遺物を包含した黒色土が堆積している。Ⅳ層は暗黄褐色土となり遺物の出土は確認できなかった。

まとめ

調査の結果、TP７区からは、黒曜石剝片と条痕のある縄文時代の土器が出土している。TP８区からは縄文時代晩期の黒色磨研土器の出土があった。TP９区からは、Ⅱ層に青磁、土師器、Ⅲ層に黒曜石剝片が出土している。TP10区からはⅢ層黒色土層から縄文時代の土器及び駒形鏃が出土している。よって、道路建設計画予定地のTP７～TP10区部分については、事前に埋蔵文化財保護のため取扱についての協議を行なう必要が認められた。

遺跡近景（北から南撮影）

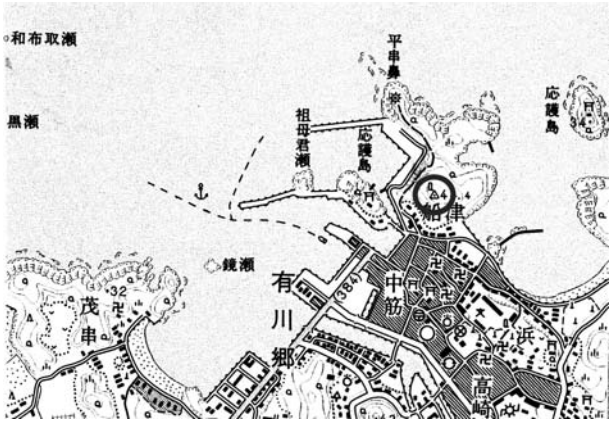
【調査担当：町田・今西】（文責：町田）

（２）鯨見山遺跡（くじらみやまいせき）

所 在 地	南松浦郡新上五島町有川郷字鯨見	**調査主体**	新上五島町教育委員会
調査原因	有川地区都市再整備計画事業	**調査面積**	24㎡
調査期間	平成24年10月１日～10月３日	**調査区分**	範囲確認調査
報 告 書	刊行予定なし	**処　　置**	調査後工事

立　地

本遺跡は1984（昭和59）年の踏査で周知された遺跡で、石鏃や黒曜石剝片が表採されている。鯨見山とは文字通り鯨を見張る山のことで、近世初頭から近代まで有川を中心に行われた捕鯨業と関わりのある丘陵である。現在は頂上部に櫓状の展望所が設置されており、またその側には鯨供養塔が建立されている。丘陵の斜面には玄武岩が露出し、近世以降の開墾で、石積みで土留めされた段々畑が作られている。



鯨見山遺跡位置図〔有川〕（S＝1/25,000）

調　査

工事計画をもとに約20m間隔で２m×２m＝４㎡の調査区を計６カ所設定し、東側からＡ～Ｆ区とした。すべての調査区で耕作土（Ⅰ層）が10～20㎝ほど堆積し、その下からは地山（＝自然堆積無遺物層、Ⅱa層およびⅡb層）が検出された。地山は玄武岩の風化したもので、固く締まっている。遺構の検出、および遺物の出土は確認されなかった。

まとめ

発掘調査の結果、遺構の検出および遺物の出土がなかったため、工事対象区域に良好な遺跡は残存していないと判断される。

【調査担当：林・今西】（文責：今西）

遺跡遠景

調査風景

（3）伊ノ浦Ｂ遺跡（いのうらびーいせき）

所 在 地　西海市西彼町伊ノ浦郷951-2他　　**調査主体**　西海市教育委員会

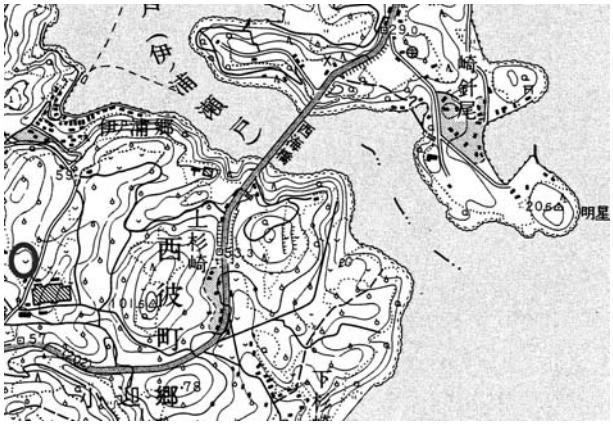
調査原因　個人住宅の土地造成　　**調査面積**　８㎡

調査期間　平成24年10月15日　　**調査区分**　範囲確認調査

報 告 書　　刊行予定なし　　**処　　置**　調査後工事

立　地

遺跡が所在する場所は、西海橋が架かる針尾瀬戸の南側台地の標高約70mにある。分布調査当時は、畑地となっているが、現在は、第二西海橋が佐世保市と西海市との間にある針尾瀬戸に架けられて、宅地化が急速に進んでいる。遺跡は縄文時代の遺物包含地となっている。



伊ノ浦Ｂ遺跡位置図〔川棚〕（S＝1/25,000）

調　査

調査の経緯は、西海市教育委員会へ不動産会社から土地造成を行なう旨の連絡があり、工事面積239.31㎡を対象として実施した。

調査は東西に試掘坑２箇所８㎡（２×２m）を設定し、掘削を行なった。堆積土層は、Ⅰ層の耕作土が厚さ20～30cm堆積している。Ⅱ層は赤褐色硬質の地山となっており、遺物及び遺構の検出は確認できなかった。

まとめ

土地造成を行なう箇所については、遺構・遺物を確認できなかったことから、工事については、慎重工事で対応することとした。　　【調査担当：林】（文責：町田）

遺跡近景

試掘坑

（４）出島和蘭商館跡（でじまおらんだしょうかんあと）

所 在 地　長崎市出島町・江戸町
調査原因　一般国道499号線電線共同溝整備工事
調査期間　平成24年11月19日～平成25年２月７日
報 告 書　平成25年度刊行予定
調査主体　長崎県埋蔵文化財センター
調査面積　54㎡
調査区分　本調査・立会調査
処　　置　調査後工事

立　地

出島和蘭商館跡は長崎港から約500m程南東側に所在し、標高は2.7mを測る。出島は、安政２年（1855）に日蘭和親条約の締結時に出島の出入りが自由になりオランダ人・プロシア人・フランス人が居住し、文久元年（1861）には英領事が居住している。この間の万延元年（1860）～慶応3年（1867）に出島周辺の埋立て工事を行なっている。

出島和蘭商館跡位置図〔長崎西南部・東南部〕
（S＝1/25,000）

調　査

本調査は、平成24年11月19日～平成24年12月７日に実施した。アスファルト舗装及び路盤基礎をコンクリートカッターで長さ18m×幅４m×深さ0.5mの切り出しを行なう。調査区は長さ６m、幅４mを１区画として、南側から１区～３区を設定した。埋め立て土の堆積は、北側から南側へ土の傾斜が認められた。土層は１層がアスファルト舗装、２層が砂利による路盤基礎、３層に黄褐色風化礫の客土が堆積、４層に暗赤褐色粘質の客土、５層は黒褐色砂質の客土がそれぞれ堆積している。遺構は、石組遺構を３層下部から検出し、２区北側端部から元治元年（1864）の石垣を検出した。遺物に西洋陶器やガラス製品が多く含まれおり、出島での生活道具として使用された物が元治元年の築足で埋め土に混じって廃棄されている。立会調査は、平成25年２月４日～２月７日に実施し、掘削面積は32㎡を測る。出土遺物は、コバルト釉薬を使用した明治以降の陶磁器として徳利片が１点出土している。遺構等は確認できなかった。

まとめ

調査で、元治元年の埋め土が北側から南側へ投げ込まれている状況が確認された。遺構は明治以降に設置された石組と元治元年築足の石垣を確認した。遺物は近世陶磁器、西洋陶器、ガラス製品、瓦、煉瓦、クレーパイプ等が出土している。以上の調査については、記録保存の措置を行い工事着工可とした。

元治元年石垣検出状況（北から南撮影）

【調査担当：町田・川道】（文責：町田）

（５）原の辻遺跡（はるのつじいせき）

所 在 地　壱岐市芦辺町深江鶴亀触515-1　　**調査主体**　長崎県埋蔵文化財センター

調査原因　原の辻遺跡調査研究事業　　**調査面積**　500㎡

調査期間　平成24年11月１日～平成25年１月18日

調査区分　範囲確認調査

報 告 書　平成25年３月刊行済み

原の辻遺跡位置図（S＝1/25,000）

【川原畑地区】

立　地

調査対象地は現況で幡鉾川の北側に位置する低地で、水田として利用されている。本地区では1994年度に農道・水路建設に伴う調査が行われている。

調　査

南北５m×東西20mの調査区を３箇所、南北５m×東西25mの調査区を１箇所、南北５m×東西15mの調査区１箇所を設定した。重機を用いて表土を除去した後、人力で掘削した。遺構としては土坑14基、ピット48基、溝２条、旧河川を確認した。

【土坑・ピット群】

多数の土坑・ピット群が検出されたが、平面分布としては１b区、３b区、５区にみられ、調査区東側に集中する。本来の掘り込み面の標高は不明であるが、底面の標高は4.90m～5.10mに集中する。これらの土坑・ピット群の時期は須玖Ⅱ式が主体的に出土していることから弥生時代中期後葉であるとみられる。土坑の多くは生活用具を廃棄したいわゆる廃棄土坑であるとみられる。

【旧河川】

河川堆積土層からの遺物の出土傾向をみると、１区及び２区における河川の作用による２次堆積と４a区及び４b区における人為的な投棄による埋没という２類型の出土状況に分類される。

河川の作用による２次堆積においても、１区と２区の様相には差異があり、河川西側に該当する２a区では比較的多量の遺物が集中して出土する一方、河川東側１b区では少量の遺物が散漫に出土し、河川中央部と推定される２b区では遺物の分布があまりみられない。これは、河川の埋没状況や流速の差異が反映しているものとみられ、特に河川西側では流れが緩慢で、遺物が堆積しやすい状況にあったものと推察される。このように箇所によって河川の流速が異なっていたことは、流路が必ずしも直線的ではなく蛇行したこともあったことを窺わせる。

一方、４a区や４b区でみられた土器出土状況は自然堆積とは様相を異にする。これらの資料は、遺存状況が極めて良好で、個体復元できるものも多く、また磨耗も少ないため、河川に人為的に土器を投棄し、磨耗を受けることがほとんどないくらい短い期間で埋没し、水分の多い土壌により包含された結果、極めて遺存の良い状況に至ったと考える方が合理的であると判断される。このような４a区や４b区にみられた河川中の土器溜の性格についての正確な判断は難しいが、人為的に形成されている点、丹塗土器が多く認められる点などから水辺の祭祀など精神文化に関わる行為が行われた結果であるという可能性が考えられる。

【出土遺物】

今次の川原畑地区における調査では弥生時代土器をはじめとする多量の遺物が出土した。遺物は須玖Ⅱ式古段階を中心とする時期の遺物が多い。甕には遠賀川以西系の逆Ｌ字口縁の甕が多くみられるが、遠賀川以東系の跳ね上げ口縁の甕も一定量認められる。これは、完掘した土坑である１b区２号土坑や５区１号土坑というある程度一括性の保証された土器群でみられるばかりでなく、４b区９層といった河川堆積層においても同様であり、この地区の特徴であるといえる。なお、遠賀川以東系の跳ね上げ口縁の口縁部（頸部直上）には、鋭い木片状の工具痕が残る例も見受けられる。また、今次の調査では丹塗土器も河川堆積層である４b区９層などから多く出土した。丹塗磨研土器は、低地部、すなわち水辺で多く出土するということが指摘されていたが、まさにこのような傾向を補強し、水辺の祭祀と丹塗土器の結びつきを想定させてくれる。弥生時代の石器としては磨製石鑿、磨製石斧、砥石などが出土しているが、５区10号土坑から出土した上下各１箇所、左右各２箇所に凹部を作り出した漁網錘と推定される石製品は特筆される。

１b区１号土坑検出状況

４a区８層（河川堆積層）遺物出土状況

まとめ

発掘調査の結果、当該川原畑地区における弥生時代の河川跡の様相、土坑・ピット群に代表される遺構にみられるような土地利用の方法が明らかとなり、今後の史跡整備にあたっての基礎資料を得ることができた。

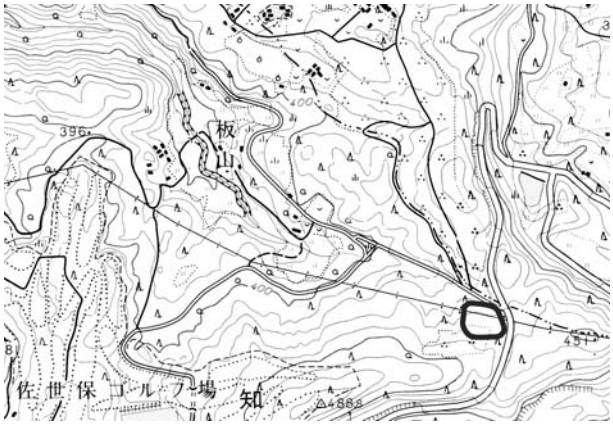
【調査担当：安楽・田口・古澤・前田・高】（文責：古澤）

（６）知見寺Ｂ遺跡（ちけんじびーいせき）

所 在 地　佐世保市知見寺町
調査原因　一般県道佐世保世知原線道路改良工事
調査期間　平成24年11月27日～平成24年11月29日
報 告 書　刊行予定なし
調査主体　佐世保文化財調査事務所
調査面積　12㎡
調査区分　範囲確認調査
処　　置　調査後工事

立　地

当該遺跡は，国見山系，佐世保市と佐賀県伊万里市境に位置する国見山から西に延びる稜線上，佐世保市知見寺町と世知原町との境付近に位置する。北は佐々川水系，南は相浦川水系により大きく深い谷が形成されている。同じ稜線上には当該遺跡だけでなく，旧石器時代から縄文時代の遺跡が数多く広範に展開する。往時の人々の移動は，移動範囲が制限される谷部よりも自由な広域移動が可能な稜線上を中心として行われたものと考えられる。



知見寺Ｂ遺跡位置図〔佐世保北部・蔵宿〕（S＝1/25,000）

調　査

知見寺Ｂ遺跡範囲確認調査　調査風景

遺跡範囲内工事区域に２m×２mの試掘坑を３ヶ所設定して，発掘調査を実施した。各試掘壙の調査結果は下記の通りである。

試掘坑１は、１層が植林に伴う黒褐色腐植土，２層が腐植土が混った暗褐色客土，３層が一部に黄褐色土が混った褐灰色客土，４層が人頭大からそれ以上の礫が混った灰色粘質土であった。

試掘坑２は、１層が試掘壙１の１層と同層，２層がブロック状にバラスが混った暗褐色客土，３層がブロック状に小礫が混った黄褐色客土で黒曜石製打製石器が出土した。４層は試掘坑１の４層と同層であった。

試掘坑３は、１層が試掘坑１・２の１層と同層，２層が小礫が混った橙色客土，３層が植物根により攪乱を受けた褐灰色土で、黒曜石製打製石器が出土した。４層は人頭大からそれ以上の礫が混った黄橙色粘質土で，試掘坑１・２の４層はこの層が水の影響でグライ化したものと考えられる。

まとめ

設定した３カ所の試掘坑では，遺構は確認できなかった。遺物は黒曜石製打製石器を２点確認したが客土層と攪乱層からの出土であり，遺物包含層の存在も確認できなかった。

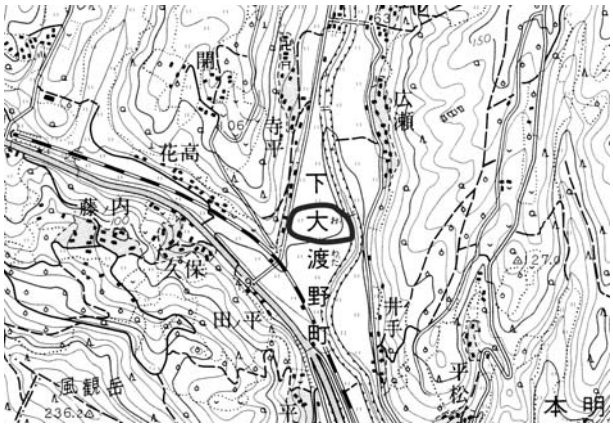
【調査担当：杉原・冨岡・生田・加世田】（文責：杉原）

（７）尾和谷城跡隣接地（おわだにじょうあとりんせつち）（中田遺跡・専岩遺跡）

所 在 地	諫早市下大渡野町2537他	**調査主体**	新幹線文化財調査事務所
調査原因	新幹線関連	**調査面積**	54㎡
調査期間	平成24年５月15日～５月22日	**調査区分**	試掘調査
報 告 書	未刊行（本調査後刊行予定）	**処　　置**	本調査

立　地

今回の試掘調査の対象地は本明川によって形成された沖積地の河岸段丘面である。西端は尾和谷城跡の裾部になることから、一段高くなっている。東端は本明川があり、その川岸から50m西にも段差があるので、全般的には三段の段丘面がある。



尾和谷城跡隣接地位置図［諫早］（S＝1/25,000）

調　査

試掘坑を９箇所設定した。調査の結果、二箇所から弥生時代～古墳時代初頭にかけての包含層が確認された。そのうちの一箇所は調査対象地の西端（尾和谷城跡裾部）になり、もう一箇所は東端に近い。この２箇所の間は、厚い礫層の堆積があり、弥生時代や古墳時代の出土遺物も認められなかった。遺跡範囲としては微高地であるこの２箇所周辺の範囲に限定されるものと考えられる。

対象地西端のTP１で褐灰色弱粘性土層（地表下190㎝）から、弥生時代の甕や高坏脚部の他、古墳時代初頭期の甕の破片等計４点が出土した。弥生時代～古墳時代初頭期にかけての遺物包含層であると判断された。東端に近いTP７では、礫層を重機で掘上げた後、７層の褐灰色～暗灰黄色土層等から弥生土器13点を確認した。

調査対象地遠景

まとめ

発掘調査の結果、TP１とTP７で弥生時代～古墳時代初頭にかけての包含層が確認された。遺跡範囲としてはTP１周辺とTP７周辺の範囲に限定されるものと考えられる。

TP１周辺を中田遺跡、TP７周辺を専岩遺跡の新規発見遺跡として取扱う。

【調査担当：村川・山梨】（文責：村川）

（８）平松城跡（ひらまつじょうあと）

所 在 地　諫早市本明町1064
調査原因　新幹線関連
調査期間　平成24年６月13日～６月20日
報 告 書　刊行予定なし
調査主体　新幹線文化財調査事務所
調査面積　12㎡
調査区分　範囲確認調査
処　　置　調査後工事

立　地

本明川は五家原岳を源とし南下するが、下大渡野町で流れを変え、諫早の市街地方向の東へと向きを変える。本城跡は下大渡野町の東南部に隣接する本明町に所在し、本明川を自然の堀として防御を固めている。

本城跡は五家原岳山麓の末端部であるが、その眼前には本明川による沖積地が広がり現状は水田と住宅地になっている。この水田の中に平松城根小屋跡が発掘調査により確認されている。

平松城跡位置図〔諫早〕（S＝1/25,000）

調　査

調査対象地は、東側曲輪の竪掘の近くの北側に位置する。細い尾根状の平地から急傾斜の肩部分の第一本明トンネルの出口工事対象地に３箇所の試掘坑を設定した。調査を進めたが、いずれの試掘坑からも遺構・遺物等は確認されなかった。

調査風景

本城跡の所属時期としては、先に触れた根小屋跡の出土遺物から13、14世紀が考ええられる。諫早市教委によれば、この平松城跡から本明川を越えて、より大村領に近い15、16世紀代の出土遺物が出土した尾和谷城跡へ移ったものといわれている。

まとめ

今回の遺跡範囲確認調査では、遺構の確認並びに遺物の出土は認められなかった。

【調査：村川・山梨】（文責：村川）

（９）中田遺跡（なかだいせき）

所 在 地　諫早市下大渡野町2501番１
調査原因　新幹線関連
調査期間　平成24年７月23日～８月30日
報 告 書　刊行予定なし
調査主体　新幹線文化財調査事務所
調査面積　88㎡
調査区分　本調査
処　　置　調査後工事

立　地

九州新幹線建設にともない平成24年５月に実施された試掘調査において発見された遺跡で、諫早市下大渡野町に所在する。標高は約51mで、本明川の谷底平野と尾和谷城跡が所在する丘陵の接続部に位置する。調査地点は水田耕作地として利用されていた。

中田遺跡位置図〔諫早〕（S＝1/25,000）

調　査

基本土層は、水田耕作土及び床土（Ⅰ層）、礫混じりの無遺物層（Ⅱ層）、包含層（Ⅲ層）に大別でき、包含層上の堆積はおよそ1.5mにおよぶ。調査は包含層上のⅠ・Ⅱ層を重機で、包含層を人力で掘削した。

調査区内で遺構は確認できなかったが、遺物はコンテナ２箱分が出土している。とくに、地山に近い標高49.4～49.6m付近では面的な分布がみられた。出土した遺物は弥生時代後期～古墳時代前期の土器を主体とし、弥生時代中期の土器を少量含む。また包含層上部では、少量ながら古代末～中世初頭の輸入陶磁器なども出土している。

まとめ

今回の調査では、調査区東半においてほぼ同レベルで弥生時代後期～古墳時代前期の遺物が分布する状況が確認された。中田遺跡の地山は西から東に向けて緩やかに傾斜しており、遺物はその標高の低い側に集中している。また、出土した土器片には摩滅の度合いが弱いものが多いことから、調査区の近隣に当該時期の集落が存在し、本調査区はその縁辺に位置しているものと考えられる。

遺物出土状況

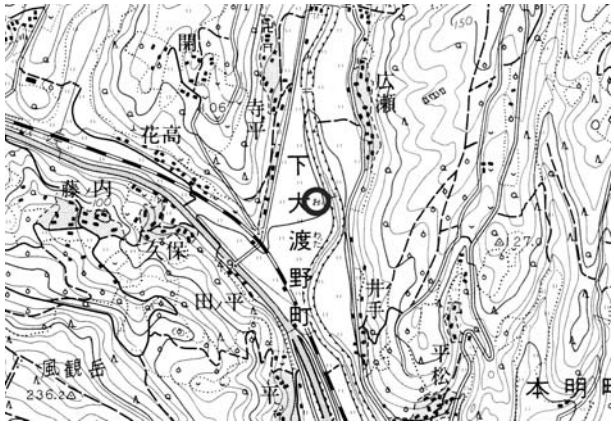
【調査担当：村川・山梨・川淵】（文責：山梨）

（10）専岩遺跡（せんごしいせき）

所 在 地　諫早市下大渡野町2537番
調査原因　新幹線関連
調査期間　平成24年７月23日～８月30日
報 告 書　刊行予定なし
調査主体　新幹線文化財調査事務所
調査面積　212㎡
調査区分　本調査
処　　置　調査後工事

立　地

九州新幹線建設にともない平成24年５月に実施された試掘調査において発見された遺跡で、諫早市下大渡野町に所在する。標高は約49mを測り、本明川沿いの谷底平野に位置する。調査地および周辺は水田耕作地として利用されている。



専岩遺跡位置図〔諫早〕（S＝1/25,000）

調　査

調査地内は耕作土の直下に約１mの無遺物層が堆積している。この無遺物層の最下部からはビニール製の肥料袋が出土しており、現代の造成土と判断された。調査は、この造成土までを重機で掘削し、それ以下を人力で掘削した。

造成土下の堆積は平面で２つに分けることができた。調査区の東側約３分の１には灰褐色～黒褐色の包含層が堆積しており､弥生時代中期～後期の土器を主体としてコンテナ１箱分の遺物が出土した。

西側約３分の２では遺物を包含しないにぶい黄褐色～灰褐色の礫層が確認された。調査区壁において礫層下に粗砂～細砂を主体とする層が確認されており、旧河道と考えられる。旧河道は前述の包含層を削りこむ形で存在しており、この河道によって本来調査区西側に堆積していた包含層が流出しているものと考えられる。

調査区内で遺構は確認されなかった。

まとめ

専岩遺跡では、造成土直下で確認した旧河道によって､調査区内の包含層の多くが削られていた。旧河道の最上層となる礫層に含まれる礫は最大で１mほどのものがあり、それらを運ぶような激しい流水があったものと考えられる。直上の造成土が近年のものであることとあわせ、旧河道は昭和32年に発生した諫早大水害時に形成された可能性が高い。

作業風景

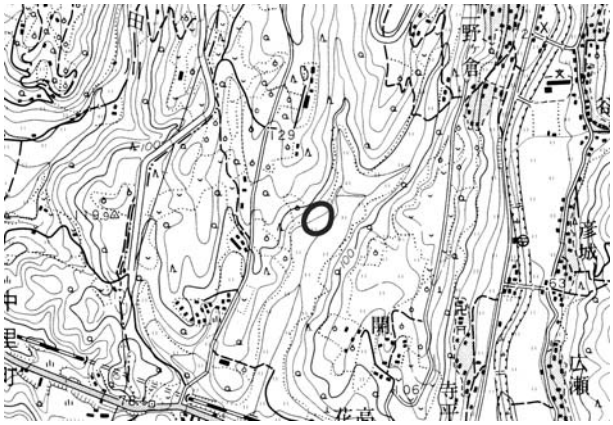
【調査担当：村川・山梨・川淵】（文責：山梨）

（11）上三反田遺跡（かみさんたんだいせき）

所 在 地　諫早市下大渡野町1674番ほか
調査原因　新幹線関連
調査期間　平成24年９月５日～９月14日
報 告 書　刊行予定なし
調査主体　新幹線文化財調査事務所
調査面積　65㎡
調査区分　試掘調査
処　　置　調査後工事

立　地

本遺跡は、標高1,057mの五家原岳山麓の南南西の末端に位置する。また、遺跡の南西には標高258mの日岳があり、双方が接する鞍部（現状は鈴田峠で諫早市と大村市を繋ぐ陸上交通の要衝）付近に所在する。諫早領の西端であることから西谷川と称する小河川によって開谷された沖積地である。



上三反田遺跡位置図［諫早］（S＝1/25,000）

調　査

本調査は、新諫早SS（変電所）建設工事計画に際し事前に行った分布調査で黒曜石の剝片をこの対象地表面で採集し、遺跡の可能性が予測されたことから予定地内に20～25m間隔に２m×２mの試掘坑を15箇所設定して試掘調査を実施したものである。

調査対象地は南北300m、東西100m程の細長い沖積地である。検出された遺構としては、TP２から暗渠排水路を検出した。円礫と板石で堅固な作りだったので近くに建物跡でもないかと調査区を広げて様子を見てみたが、特にそのような状況は認められなかった。他にも遺構は確認できなかった。

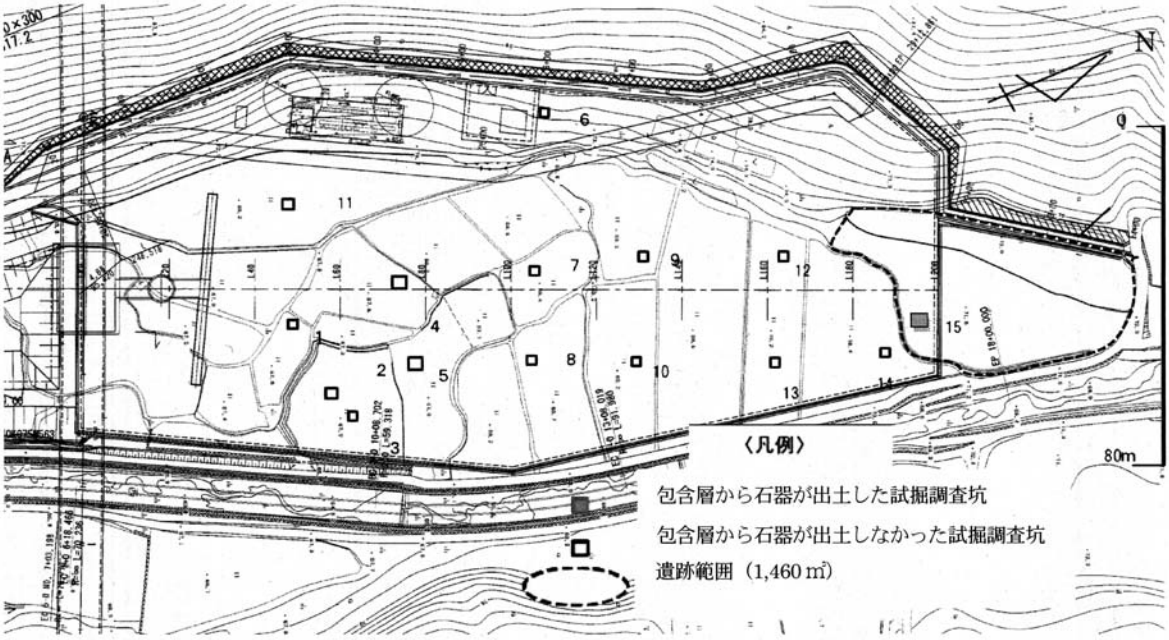
調査状況（南西から撮影）

上三反田遺跡（北東から撮影）

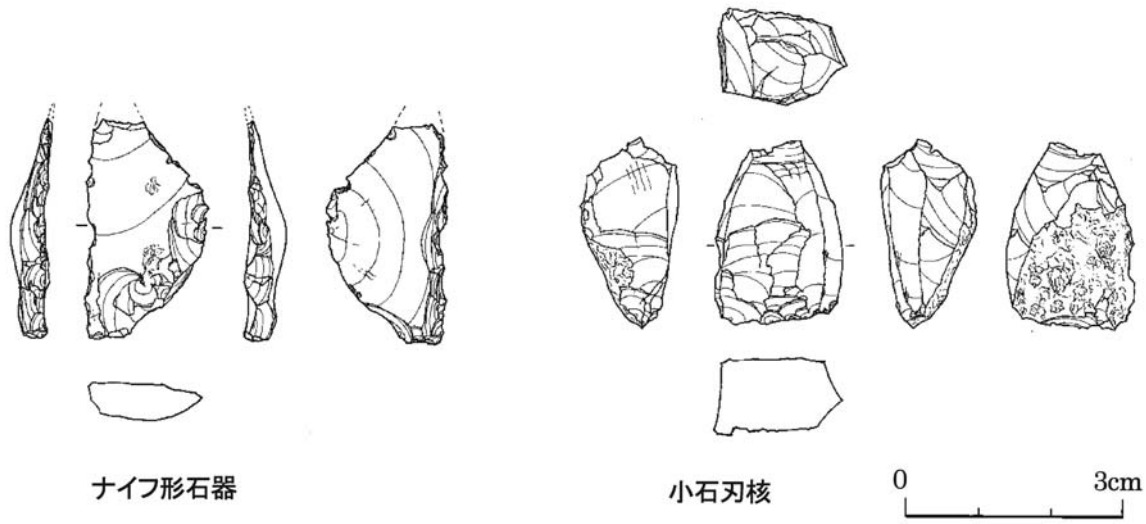
まとめ

試掘調査の結果、TP15包含層において石器等が出土したので、その周囲は上三反田遺跡（1460㎡）とした。今後、新規発見遺跡については発掘調査が必要である。

【調査担当：村川・山梨】（文責：村川・石器実測トレース：松永）



試掘調査坑配置図



出土遺物実測図　縮尺1/1

（12）平野遺跡（ひらのいせき）

所 在 地　大村市鬼橋町157番　他
調査原因　新幹線関連
調査期間　平成24年10月２日～10月16日
報 告 書　刊行予定なし
調査主体　新幹線文化財調査事務所
調査面積　84㎡
調査区分　試掘及び範囲確認
処　　置　本調査

立　地

本遺跡は大村市鬼橋町に所在し、古墳時代の遺跡として周知されている。標高は約24m～21mで、大村扇状地の扇端付近に位置する。周辺は畑地として利用されている。

平野遺跡位置図〔武留路山〕（S＝1/25,000）

調　査

調査は九州新幹線路線予定地のほぼ中心沿いに、25mの間隔で範囲確認10箇所、試掘５箇所、計15箇所の調査坑を設定した。基本土層は耕作土下に黒色～黒褐色土、暗褐色～黄褐色の漸移層、黄褐色土混じりの礫層となる。一部の調査坑では、漸移層中にハードローム状の灰黄色土ブロックが混在する。

黒色～黒褐色土からは縄文時代～近世の遺物が出土しているが、特に南半の調査坑において中世の遺物と縄文時代の遺物の出土レベルが逆転するなど、著しい撹乱を受けていると考えられる。一方周知の遺跡範囲の北端に当たる３箇所の調査坑では弥生時代を主体とする包含層の残存が確認できた。

なお、本調査において遺構は確認できなかった。

まとめ

今回の調査では、遺跡北端の調査坑において弥生時代の包含層の残存が確認された。当該地点の調査坑では、他の調査坑に比べて黒色～黒褐色土の堆積が厚くなっており、旧地形が窪地になっているものと判断された。そのため耕作の影響を受けず、包含層が比較的良好に残存したものと考えられる。この包含層残存部分については、本調査の実施が必要であると考えられる。

【調査担当：村川・山梨】（文責：山梨）

TP12北壁土層断面

（13）小路口遺跡隣接地（おろぐちいせきりんせつち）

所 在 地　大村市鬼橋町1013番　他
調査原因　新幹線関連
調査期間　平成24年11月27日～12月７日
報 告 書　刊行予定なし
調査主体　新幹線文化財調査事務所
調査面積　71㎡
調査区分　試掘調査
処　　置　慎重工事

立　地

調査地点は大村市鬼橋町内に所在し、郡川によって形成された扇状地に立地する。北側には平野遺跡、東側に立小路遺跡、南西に小路口遺跡が隣接し、標高は約28m～25mを測る。当該地はこれまで遺跡として周知されていないが、九州新幹線西九州ルート建設に伴い遺跡の有無を確認するために試掘調査を行った。

小路口遺跡隣接地位置図〔武留路山〕（S＝1/25,000）

調　査

調査は新幹線路線部分に20～25m間隔で計10箇所の調査坑を設けて行った。調査坑はほぼ路線の中心に沿って設定したが、住宅が残っている等の理由により、一部中心から外れるものもある。基本土層は、耕作土、黒褐色土、暗褐色～黒褐色土の漸移層、黄褐色礫層となる。遺物は近代の陶磁器や黒曜石が出土しているが、出土層位は耕作土を中心としており、遺物包含層は確認できなかった。また、いずれの調査坑においても遺構は認められなかった。

まとめ

今回の調査では遺物包含層および遺構を確認することはできなかった。

【調査担当：村川・山梨】（文責：山梨）

調査地遠景

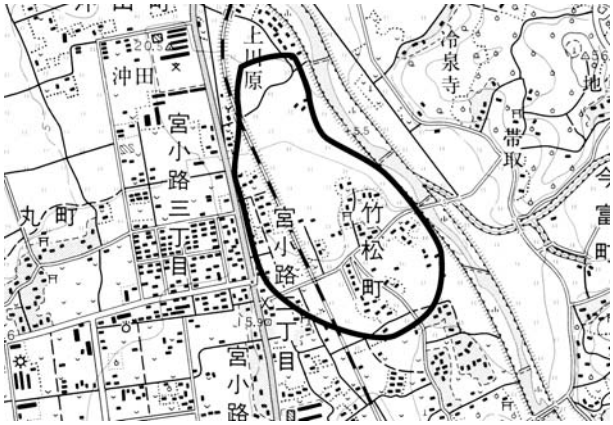
TP10北壁土層断面

（14）竹松遺跡（たけまついせき）

所 在 地　大村市竹松町1037番地　他
調査原因　新幹線関連
調査期間　平成24年５月18日～平成25年３月15日
報 告 書　刊行予定なし
調査主体　新幹線文化財調査事務所
調査面積　10,000㎡（調査完了面積9,000㎡）
調査区分　本調査
処　　置　調査後工事

立　地

本遺跡は大村市竹松町に所在し、縄文時代～中世の遺跡として周知されている。標高は約10～15mで、大村市を東から西に流れる郡川によって形成された扇状地の北側端部にあたり、南東から北西に緩やかに傾斜する。



竹松遺跡位置図〔武留路山〕（S＝1/25,000）

調　査

今回の調査区は、昨年度の調査区の北側にあたる。調査は、座標に合わせて20m×20mの方眼を組み、表土を重機で、それ以外を人力で掘削した。遺構は、弥生時代の墓域（箱式石棺墓18基、甕棺墓３基、土坑墓３基）や古代～中世にかけての竪穴住居跡７棟、掘立柱建物跡13棟、鍛冶炉跡３基、土坑墓３基、用排水路７条、区画溝１条、ピット3,000基余りを検出した。なお、弥生時代の墓域（1,000㎡）の調査は、次年度への継続調査とした。

遺物は、縄文時代晩期のものから、中世のものまで途中絶えることなく出土している。中でも、古代～中世にかけての土器類は、貿易陶磁器の出土量の多さに加え、緑釉陶器や初期貿易陶磁器を含む点で注目される。また、古代の遺物包含層からは線刻文字「木」「都」の線刻紡錘車が、中世の土坑墓と思われる遺構からは「湖州六花鏡」が出土した。

まとめ

今回の調査で、竹松遺跡は縄文時代晩期～中世にかけて連綿と人々の生活の場であったことが分かった。中でも、弥生時代と古代～中世にかけては活発な活動が行われていたことが、遺構や遺物から窺える。弥生時代については、今回は、墓域のみの検出であることから、集落や水田が近くにあると思われる。古代～中世にかけては、出土した土器類や文字資料から、公的な施設が近くに存在していたことが想定される。

作業風景

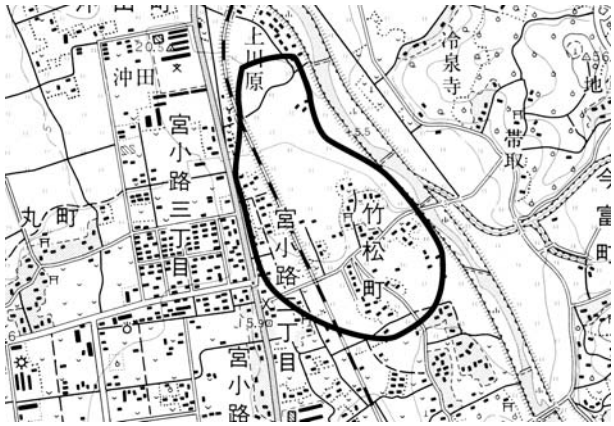
【調査担当：川畑・宮武・山梨・松﨑・川淵・濵村・田島・吉川】（文責：川畑）

（15）竹松遺跡（たけまついせき）

所 在 地　大村市竹松町913-1他
調査原因　新幹線関連
調査期間　平成24年７月２日～７月23日
報 告 書　未刊行（本調査後刊行予定）
調査主体　新幹線文化財調査事務所
調査面積　104㎡
調査区分　試掘・範囲確認調査
処　　置　調査後本調査

立　地

竹松遺跡は大村扇状地の北部に立地している。ここには郡川が流れており、河口部から１km程遡ったところで屈曲しているが、その屈曲部からさらに500m程上流部の右岸に遺跡は立地している。郡川は現在の位置に落ち着くまでは、扇央部の標高が高い所から周辺へと流路を移動させており、傘の骨のように幾筋かの旧河川が試掘調査や本調査により確認されている。



竹松遺跡位置図〔武留路山〕（S＝1/25,000）

調　査

今回の調査対象範囲は幅12m、延長500mである。試掘坑を21箇所と、遺跡隣接地に５箇所の試掘調査坑を計26箇所設定し調査を進めた。土層は第１層が暗褐色粘質土層、第２層が黒褐色粘質土層、第３層が黒色粘質土層、第４層が礫混じり暗褐色粘質土層である。８箇所の試掘調査坑から、柱穴を検出したが、第２層を掘り込んだものと、第４層を掘り込んでいるものがあり、時代的にも幅を持っているものと思われる。遺物の出土状況は、遺跡全体を概括すれば、弥生土器、古式土師器、須恵器、中国製輸入陶磁器（白磁・青磁・明染付）、土師質土器、須恵質土器、石鍋、近世陶磁器、円盤状陶磁製品、瓦質土器、その他（ガラス、黒曜石、土錘、西彼杵半島から搬入されたと思われる結晶片岩）等639点が各層から出土した。

調査風景

まとめ

試掘・範囲確認調査の結果、全部で26箇所のうち８箇所の試掘調査坑から、複数の時代に亘る時代の柱穴等が検出された。出土遺物は弥生時代、古代、中近世期等のものがあった。

以上の調査結果及び保守基地に伴う竹松遺跡の調査結果により、北端から南端までの範囲については、弥生時代から中世に至る遺物も確認されたので本調査が必要である。

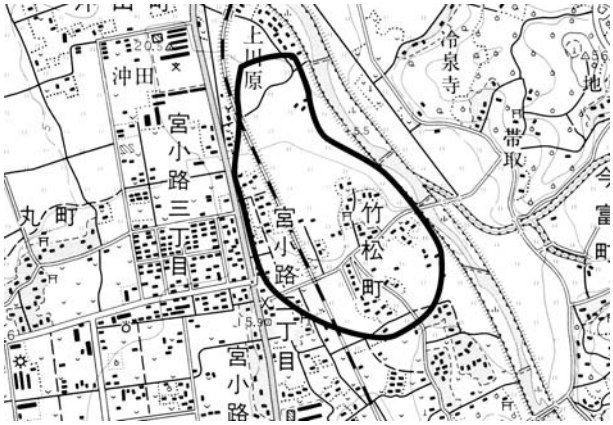
【調査担当：村川・宮武】（文責：村川）

（16）竹松遺跡　（たけまついせき）

所 在 地	大村市竹松町948-2他	**調査主体**	新幹線文化財調査事務所
調査原因	新幹線関連	**調査面積**	6,300㎡
調査期間	平成24年８月31日～平成25年３月14日	**調査区分**	本調査
報 告 書	刊行予定なし	**処　　置**	調査後工事

立　地

本遺跡は大村市竹松町に所在し、縄文時代～中世の遺跡として周知されている。標高は約10～15mで、大村市を東から西に流れる郡川によって形成された扇状地の北側端部にあたり、南東から北西に緩やかに傾斜する。



竹松遺跡位置図〔武留路山〕（S＝1/25,000）

調　査

調査は、座標に合わせて20m×20mの方眼を組み、表土を重機で、それ以外を人力で掘削した。また、遺物を包含する⑤層上面以下は、再びバックホウを投入して地山の砂礫層まで下層確認をおこなっている。上層の遺物包含層については複数時期の遺物が混在している。⑤層上面には、調査対象地全般的に縄文時代晩期と考えられる土器片や扁平打製石斧が含まれている。⑤層上面については時期的なまとまりが認められ、プライマリーな土層と判断できる。⑤層上面に掘り込まれている石棺墓４基と土坑１基を確認したが削平のために石棺墓は蓋石、側石等が抜かれており原型を状態良く留めていたのは１基のみであった。土坑内からは管玉が出土した。

まとめ

今般調査は、新幹線の線路部分という限定的な調査であったが、調査対象地の北側において明確な遺構の存在が確認できた。対象地を含め、竹松遺跡の発掘調査は広範に実施されており、遺構、遺物が大量に出土している。これらの事実から、調査対象地以北に集落等の遺跡の中心部が存在する可能性があり、特に④区の石棺墓、土坑墓はその外縁部と見ることもできる。今後の調査成果とあわせて、その位置づけをしたい。

作業風景

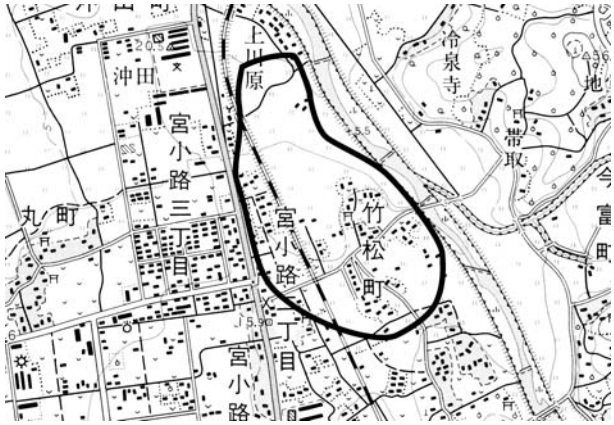
【調査担当：宮武・吉川・佐藤・芋坪・徳弘】（文責：徳弘）

（17）竹松遺跡（たけまついせき）

所 在 地　大村市竹松町1020番　他
調査原因　新幹線関連
調査期間　平成24年10月30日～11月９日
報 告 書　刊行予定なし
調査主体　新幹線文化財調査事務所
調査面積　66㎡
調査区分　試掘・範囲確認調査
処　　置　本調査

立　地

本遺跡は大村市竹松町に所在し、縄文時代～中世の遺跡として周知されている。標高は約10～15mで、大村市内を西流する郡川によって形成された扇状地の扇端部にあたり、南東から北西に緩やかに傾斜する。



竹松遺跡位置図〔武留路山〕（S＝1/25,000）

調　査

調査対象地は田畑及び宅地として利用されていた場所である。周知の遺跡範囲の北側隣接地についてもあわせて試掘調査を実施し、計16箇所の調査坑を設定した。

層序や遺物の出土状況は調査範囲の南側と北側で大きく変わる。調査範囲の北半では、宅地造成等により、包含層の堆積は確認できなかった。南側の基本土層は耕作土、灰褐色土（古代～中世包含層）、黒褐色土（縄文時代晩期～弥生時代包含層）、褐色～黄褐色土礫層（地山）となる。調査範囲の南端に設定したTP１ではTP２以北で確認できなかった黒褐色土層が認められる。TP１は舌状台地上に設定されており、当該層は台地外には堆積していないと考えられる。また、TP１においては地山上で柱穴が１基検出された。

まとめ

本調査では周知の遺跡範囲内である調査範囲南半において縄文時代晩期～中世の遺物包含層と遺構を確認することができた。このことから、当該範囲においてはさらに詳しい調査を実施することが必要であると考えられる。調査範囲北半については遺構が認められず遺物の出土も少量であり、宅地造成によって撹乱を受けていると考えられる。

【調査担当：村川・山梨】（文責：山梨）

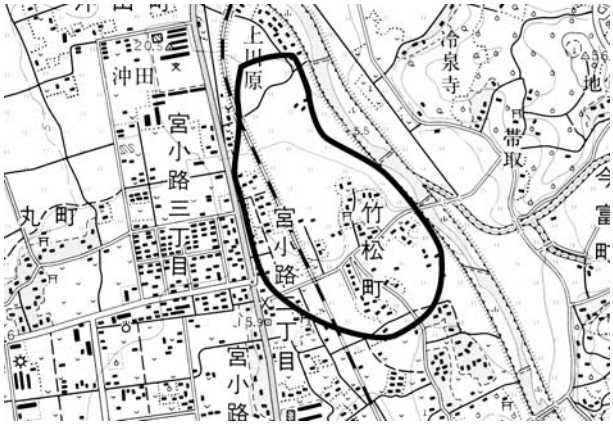
TP１西壁土層断面

（18）竹松遺跡（たけまついせき）

所 在 地　大村市竹松町
調査原因　新幹線関連
調査期間　平成25年１月10日～２月20日
報 告 書　未刊行（本調査後刊行予定）
調査主体　新幹線文化財調査事務所
調査面積　187㎡
調査区分　範囲確認調査
処　　置　調査後本調査

立　地

竹松遺跡は大村扇状地の北部に立地し、郡川が多良山系西側斜面の黒木渓谷から大村湾へ流れており、河口部から１km程遡ったところで屈曲しているが、その屈曲部からさらに500m程上流部の右岸に遺跡は立地している。郡川は現在の位置に落ち着くまでは、扇央部の標高が高い所から周辺へと流路を移動させており、傘の骨のように幾筋かの旧河川が試掘調査や本調査により確認されている。

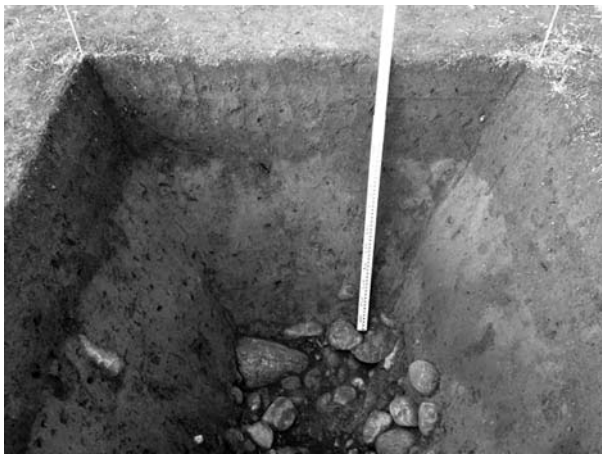


竹松遺跡位置図〔武留路山〕（S＝1/25,000）

調　査

今回の調査対象地はJR線路の東側である。試掘坑を43箇所設定し調査を進めた。

土層は黄褐色系の粘質土層を広範囲で確認した。第１層が暗褐色粘質土層、第２層が黒褐色粘質土層、第３層が黒色粘質土層、第４層が黒色土層、第５層が暗褐色粘質土層、第６層がにぶい黄橙色～暗褐色土層（ソフトローム状）、第７層が褐灰色～灰黄褐色土（ハードローム状）第８層が黄褐色土層である。13箇所の試掘調査坑から、柱穴等を検出したが、その所属時代等多岐に及んでいるものと考えられる。


TP９北壁土層写真

遺物の出土状況は、全43箇所のうち39箇所の試掘調査坑で、縄文時代晩期土器、石器、弥生土器、須恵器、土師器、中国製輸入陶磁器（白磁・青磁・明染付）滑石製石鍋、瓦器、近世陶磁器、金属製品等1,300点が各層から出土した。

まとめ

試掘・範囲確認調査の結果、複数の時代に亘る時期に所属すると思われる柱穴等が検出されたので、今回の調査範囲は本調査が必要と判断された。

【調査担当：村川・山梨】（文責：村川）

報 告 書 抄 録

ふ り が な	ながさきけんまいぞうぶんかざいちょうさねんぽう21
書 名	長崎県埋蔵文化財調査年報21
副 書 名	平成24年度調査分
巻 次	
シ リ ー ズ 名	長崎県埋蔵文化財センター調査報告書
シ リ ー ズ 番 号	10
編 集 機 関	長崎県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒811-5322　長崎県壱岐市芦辺町深江鶴亀触515-1　TEL 0920(45)4080
発 行 年 月 日	2014年２月14日

所収遺跡名	所 在 地	遺跡コード		調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町	遺跡番号			
小 路 口 遺 跡	大村市小路口本町	42205	092	20120723～20120803	40㎡	道路
鯨 見 山 遺 跡	南松浦郡新上五島町	42411	061	20121001～20121003	24㎡	道路
伊 ノ 浦 B 遺 跡	西海市西彼町	42212	006	20121015～20121015	8㎡	住宅
出島和蘭商館跡	長崎市出島町・江戸町	42201	109	20121119～20130207	53.6㎡	共同溝整備
原 の 辻 遺 跡	壱岐市芦辺町	42210	424	20121101～20130118	500㎡	調査研究
知 見 寺 B 遺 跡	佐世保市知見寺町	42202	015	20121127～20121129	12㎡	道路
尾和谷城跡隣接地	諫早市下大渡野町	42204	－	20120515～20120522	54㎡	新幹線関連
平 松 城 跡	諫早市本明町	42204	036	20120613～20120620	12㎡	新幹線関連
中 田 遺 跡	諫早市下大渡野町	42204	－	20120723～20120831	88㎡	新幹線関連
専 岩 遺 跡	諫早市下大渡野町	42204	－	20120723～20120831	212㎡	新幹線関連
上 三 反 田 遺 跡	諫早市下大渡野町	42204	－	20120905～20120914	65㎡	新幹線関連
平 野 遺 跡	大村市鬼橋町	42205	088	20121002～20121016	84㎡	新幹線関連
小路口遺跡隣接地	大村市鬼橋町	42205	－	20120723～20120830	71㎡	新幹線関連
竹 松 遺 跡	大村市竹松町	42205	086	20120518～20130315	10,000㎡（調査完了面積9,000㎡）	新幹線関連
竹 松 遺 跡	大村市竹松町	42205	086	20120702～20120723	104㎡	新幹線関連
竹 松 遺 跡	大村市竹松町	42205	086	20120831～20130314	6,300㎡	新幹線関連
竹 松 遺 跡	大村市竹松町	42205	086	20121030～20130119	66㎡	新幹線関連
竹 松 遺 跡	大村市竹松町	42205	086	20130110～20130202	187㎡	新幹線関連

長崎県埋蔵文化財センター調査報告書 第10集

長崎県埋蔵文化財調査年報21

［平成24年度調査分］

2014年 2 月14日

発　行　長崎県教育委員会
長崎市江戸町 2 番13号

印　刷　㈲三省堂印刷所
長崎市幸町 4 番28号